

プロポーザル審査委員会（第3回）会議概要・議事録

◇会議概要

○開催日時：平成25年6月12日（水）13：10～17：00

○出席者：委員（平松委員長、仲委員、山口委員、廣田委員、福田委員）全員出席
事務局（大場建設監、太田総括課長補佐 外）

○会議次第

1. 開会

2. 議事

（1）委員会

- ・審査の進め方について
- ・特定通知等について
- ・公表について

（2）ヒアリング

- ・A者
- ・B者
- ・C者

（3）委員会

- ・提案書審査

○審議結果等

最優秀提案者はA者とし、次点はC者とする。

◇議事録

（1）委員会（13：30～14：10）

[資料に沿って、審査の流れ、事務局審査の結果、委員審査の進め方について事務局が説明]

委員長：審査の流れ、事務局審査の結果、委員審査の進め方については、事務局の説明のとおりで良いか。

委員一同：同意。

【共通質問について】

委員長：共通質問については、「①提案の中で、最も工夫している特徴となる点は何か。業務推進上の工夫点は何か」「②民間オフィスと異なり、どのような特別な配慮が必要と考えるか」「③ワークスタイルのありたい姿や、ワークプレイスのコンセプト

トを設計に反映させるには具体的にどのように考えるか」で良いか。

委員一同：同意。

【各者の提案内容の感想と個別質問の内容について】

委員：事前に見た感じでは、各者変わらない。A者は全体的に的を射ている印象。ワークショップを活用した内容の提案だが、県民の意見を伺う際の課題やワークショップからどういった点を吸い上げるのかについて確認したい。B者はスタンダードを大事にしているが、メリット・デメリットがある。変化に応じてどう対応するかについて確認したい。C者はプログラミングの内容を意識し、理解して行おうとしている。手法についてどの程度考えているか、又、チェンジマネジメントを実際どのようにして行っていくかについて経験則を伺いたい。

委員：三者とも内容がてんこもり。A者は協働を意識しているが、B・C者は協働について触れられていない。協働についての考え方について伺いたい。

委員：各者とも特徴がある。A・C者はコンセプトを強く出しており、B・C者は供用開始後の効果検証について触れられている。各者の考え方や効果検証をどう活かすかについて伺いたい。

委員：各者概ね同じ。働き方のあるべき姿として、具体的にどのように変わることを想定しているか伺いたい。

委員：協働について強く意識されているところとされていないところがある。業務手法については、経験則からどのように進めていくのかを伺いたい。

[審査結果に関する「特定通知等」や「公表等」について、資料に沿って事務局が説明]

委員長：事務局の説明のとおりで良いか。

委員一同：同意。

(2) ヒアリング (13:50~15:45)

【A者質疑応答】

(共通質問)

①委員長：提案の中で、最も工夫している特徴となる点は何か。業務推進上の工夫点は何か。

A者：新しい働き方を具現化するに当たり、新庁舎だけでなく、庁舎外での県民との活動をサポートする仕組みについても考えてながら設計をするよう考えている点。また、職員や県民を取り込みながら、プランニング・基本設計・実施設計の段階で合意形成をはかる点や事前に運用面も考慮して進める点が特徴である。

②委員長：民間オフィスと異なり、どのような特別な配慮が必要と考えるか。

A者：ワークプレイスづくりという点では同じだと思うが、安全・安心への配慮は、よ

り必要。特に多数の来庁者が想定されることから、オープンにするところとセキュリティをかけるところをどう作るかの配慮が必要。

③委員長：ワークスタイルのありたい姿や、ワークプレイスのコンセプトを設計に反映させるには具体的にどのように考えるか。

A者：コンセプトを基に、各課にインタビューし、具体的な場に落とししていく。併せて働き方やツールについても整理していく。

(個別質問)

委員：理想的な提案であるが、具体的に進める上では、ユーザーに保守的な動きも出てくると思われるが、どのように進めていくよう考えているか。

A者：何のために各エリアをつくっていくのかを、いかに分かってもらうかである。まずは各部の核となる職員からなるフォーカスチームで詳細の検討をし、理想のオフィスについて各部に広げてもらう役割を担ってもらう。

委員：核となる職員はどのようにして見つけるのか。

A者：民間のオフィスでは社長の指名が多い。県庁においても信念を持った元気のいい職員は必ずいる。そのような人物を巻き込んでいく。

委員：協働を促進するためにハードとソフトとを検討していくワークショップでは、どのような県民の参加を考えているか。

A者：展示交流基本計画をつくる際に意見聴取してあるNPO団体等の参加を想定しているが、県と相談し、ポイントとなる方々を集めたい。

委員：具体的な事例はあるのか。

A者：まちづくりに関する提案や、民間のマーケティングに関する空間、受付まわりの空間について実施した実績がある。

委員：民間の事例はあるのか。

A者：受付周りも民間だが、他にも博物館の事例などがある。

委員：働き方のあるべき姿として、具体的にどのように変わっていくことを想定しているか。

A者：例えば、ホスピタリティの向上というコンセプトから、あるべき県民対応の方法を考え、それをしやすいカウンターのづくりなどに反映していく。

委員：職員の意識をどのようにして変えていくことを考えているのか。

A者：ビジョンを共有すること。会議やwebの掲載、ワークセッションの実施などにより、理解を深めていただく。

委員：職員の意見を聴いていく中で、部局などによっては違う考え方もあると思うが、どのような対応を考えているか。

A者：全所属のインタビューを行い、パターンをいくつかに分け、一定の基準を作る。それを基本に各部署の特徴を付加していく。

委員：期間内にこれだけの業務内容を実施できるか。

A者：業務の実施フローで示しているとおりに行う想定で提案している。

委員：ワークセッションなどは全員参加することは不可能だが、どのようにしてメンバーを選ぶのか。

A者：各部門の代表者や核となる職員で行い、結果を各部門にフィードバックしていただく。

委員：各部門に伝達するノウハウはあるか。

A者：ワークセッションの結果などの情報を出来る限りオープンにすることや、不明な点についてどんどん聴いてもらうこと。色々な質問への対応もしたい。

委員：備品の転用計画については、既存の備品も含めて行うのか。

A者：現状調査を行った上で、新規の物・転用の物を選別していく。古い什器なども例えば上から隠すなどの設えはできる。

委員：什器のリノベーションについてもノウハウがあるか。

A者：ある。それも含めて検討していく。

【B者質疑応答】

(共通質問)

①委員長：提案の中で、最も工夫している特徴となる点は何か。業務推進上の工夫点は何か。

B者：プログラミングで整理したコンセプトを具現化するために、業務特性や運営を考えながらすすめていくよう考えている。業務を進めるに当たっては、多岐に渡る専門チームを準備している点、業界トップの実績がある点が特徴。2011年度は行政庁舎のうち、6割近くを受注しており、事例をたくさん持っている。

②委員長：民間オフィスと異なり、どのような特別な配慮が必要と考えるか。

B者：単なるオフィスでなく、県民も利用する空間であるため、トータルでコーディネートすることが必要。公共施設については、庁舎だけでなく、病院や学校、保育所など幅広い実績がある。

③委員長：ワークスタイルのありたい姿や、ワークプレイスのコンセプトを設計に反映

させるには具体的にどのように考えるか。

B者：要件に基づいたオフィススタンダードを基本に進めていく。声の大きいところに引っ張られないようにすることが重要。

栃木県庁を実施した際には、新しい働き方という発想はなかった。そのような発想が出てきたのは比較的最近になってから。民間の最先端の事例もあり、本業務にも寄与できる。

(個別質問)

委員：オフィススタンダードという考え方は大事だと思うが、一方でオフィスも多様化しており、オフィススタンダードをつくることで変化を阻むことにはならないのか。各部門の個性をつぶしてしまうことはないか。

B者：オフィスのあり方も当然変わっていくので、フレキシビリティも考慮したスタンダードを考えていくことが重要。例えばユニバーサルプランなどが考えられるが、働き方を調査しながらすすめていく。現在はユニバーサルデスクについても色々なものがあり、働く環境を見据えたものを検討していきたい。

委員：協働の視点については明記されていないが、どのように考えているか。

B者：必要なテーマと思っている。横浜市など市町村がメインだが、具現化しているものは少ないと思われる。長岡市や町田市で見られるが、全国的に始まったばかり。全国的な事例も持っているので、それらを参考にしながら進めていく。

委員：効果の検証はこれまでもやってきたことか。一般的に行われているのか。

B者：民間ではよく行われているが、行政では予算の壁があり、なかなかそこまで実施できていない。5年間の長期契約を締結し、効果検証まで行う予定としている飯塚市のような事例はあるが、全体的には少ない。

委員：働き方のあるべき姿として、具体的にどのように変わっていくことを想定しているか。

B者：知識を生み出す、新しいアイデアを創造する空間を想定している。プログラミングのコンセプトにもあるとおり、行政こそ知識を生み出すものであり、生産性を高める必要がある。

【C者質疑応答】

(共通質問)

①委員長：提案の中で、最も工夫している特徴となる点は何か。業務推進上の工夫点は何か。

C者：民間のオフィスを実施した経験者を多数揃え、民間的発想も含めた改革を進める

ための実施に役立てる。業務の推進においては、定量調査を全職員に実施し、判断材料として活用してもらうことを特徴としている。

②委員長：民間オフィスと異なり、どのような特別な配慮が必要と考えるか。

C者：合意形成が難しいと感じている。過去にもユニバーサルデスクを提案していたが、実際にやる段階において実施できなかった例もある。決めたことは後戻りせず、節目で押さえていくことが重要と思われる。

③委員長：ワークスタイルのありたい姿や、ワークプレイスのコンセプトを設計に反映させるには具体的にどのように考えるか。

C者：場のイメージを具体的に提示し、制約条件と必要条件をどのようなバランスで整理していくかだと思う。データを活用しながら提示していきたい。

（個別質問）

委員：改革の難しさのようなものはこれまでも経験していると思うが、それらを乗り越えるノウハウや工夫はあるか。

C者：実際に体感してもらうことが重要。「オフィスはギブス」という言葉もあり、オフィスが提供されれば行動は変わってくる。

委員：働き方についても変えたくないという声もあると思われる。具体的にどのように進めていくのか。

C者：100%の方が納得することはできないが、最大限努力する。意見を取り入れられない際の理由を説明できるようにすることが大事。

委員：協働の視点については、どのように考えているか。

C者：全てが今回の業務の範囲と認識している。フューチャーセンターなどの実績もある。

委員：アンケートをして分析をしてヒアリングを行うという流れは、いつも行う手法か。

C者：そのとおり。

委員：アンケートを行うチームとヒアリングを行うチームは同じか。

C者：同じチーム。アンケートはweb等を活用して行う。

委員：働き方のあるべき姿として、具体的にどのように変わっていくことを想定しているか。

C者：人の頭の中を変えることはできないが、環境を変えることで変わることができる。

委員：アンケートはどういうことをするのか。

C者：ありたい働き方ができているか、重要だができていない働き方があるか、現状のワークプレイスの満足度などの調査を行う。

委員：合意形成はどういうプロセスで行うか。

C者：ポイントで部会や会議を開いて報告していく。その中に各部門の代表者に入っていたら。

委員：体感してもらうとのことだが、モデルオフィスを新たにつくるということか。

C者：ペーパーレスなど実際に準備して体験してもらうことが大事。

(3) 委員会 (15:55～17:00)

【意見交換】

各者の提案内容について意見交換を行った。

委員：A者はやる気がみなぎっており、具体的な中身まで考えられている。運用面についても事前に考えられるようになっており、マニュアルの整備まで踏み込まれている。心配な点としては、メンバーが全員東京であり、密な打合せやタイムリーな意図伝達には工夫が必要であろう。B者はスタンダードにこだわった内容であったが、魅力がきちんと伝わらなかった。運用面についても提案されており、自治体の実績が多いため、自治体に詳しいと思われるが、全体的に従来の枠組みの中での提案と感じた。C者は、総論は良いが、詳細についての説明がない。調査については詳細の説明を示しているが、本業務で使う妥当性が説明されていない。

委員：順位はA-C-Bと思う。A者は考え方が確立しており、完成品のイメージが整理できているように思われる。また県民協働の視点も持っている。B者は一般的な感じで、新たなワークプレイスという感じがしない。C者は合意形成について理解するツールは準備されているが、どのように進めていくかが見られなかった。

委員：A-C-Bと思う。A者はイメージができあがっており、ヒアリングでのやりとりも内容がしっかりしている。B者・C者は協働の視点が見られなかった。

委員：A-C-B。A者は具体的な考え方を十分踏まえた提案になっている。詳細調査についても、細かい手法についての説明があった。実際できるかどうかについては調整が必要。B者は従来どおりの考え方の内容のもの。C者は、県の考え方を踏まえた提案となっているが、具体性に欠けていた。

委員：A者が良く、B者・C者にはあまり差はないと思う。A者は全体的に良く、やることはたくさんあるが、そこは県と今後詰めていけば良い。B者は備品の転用計画についても触れられている点、C者はコンセプトについては良いが、どちらも具体的な説明は不十分に思われた。

【採点・集計】

各委員が審査項目について採点を行い、その結果と事務局による基礎的審査を合わせた集計表を作成。

審査結果集計表

項目	A者	B者	C者
一次審査 (満点30点)	25.7	15.6	23.3
二次審査 (満点70点)	58.7	35.1	44.4
合計 (満点100点)	84.4	50.7	67.7
順位	1	3	2
審査結果	最優秀提案者		次点

委員長：投票の結果からA者を最優秀提案者、C者を次点と決定してよろしいか。

委員一同：同意。

委員長：以上で本日の審議を終了する。

(終了)